



# 第1学年だより

我孫子市立我孫子中学校 第一学年 令和3年12月6日（月）発行

No.10【増刊号】



## 歌声コンクールを終えて感じたこと

### ◎ 1組

**0さん**：「1組だけのHEIWAの鐘を会場に響かせる！！」私は自分が立てたこの目標が本番、コンクールの会場で達成できたと思いました。私は、今まで伴奏者がやりたくても、やってみようとはまではいかず、1回もやったことがありませんでした。本番の前日に、担任の先生が「このクラスは、奇跡のクラスなんだよ」と話してくれました。私も先生の話聞いて、当たり前だと思っていたことが本当は奇跡だったんだと思い、このクラスがもっともっと大好きになりました。この1組の歌声で、ピアノが弾けて、自分はすごく幸せ者だと感じました。KちゃんやAちゃん、パートリーダー、音取りなど一緒に頑張ってくれた1組のみんなに感謝しています。本当にありがとうございました。これからもっと練習して、さらにクラスの歌声を良くしていきたいです。

**Nさん**：「1組で歌えてよかった。」私はコンクールを通して心の底から思いました。1組が歌声コンクールで披露する歌は『HEIWAの鐘』です。私は歌声委員、歌声部会長として1組の歌声が少しでもよくなるようにコンクールが成功できるように頑張ってきました。そしてコンクール当日、みんなで一致団結して全力で歌いました。しかし、結果発表で1組の名前は呼ばれませんでした。本当に悔しいです。みんな悔しがって泣いていて、みんな本気で頑張ってくれて協力してくれたことに気がつきました。悔しいけれど、歌声コンクールに向けて頑張った取り組みは絶対に無駄じゃないと思います。賞は取れなかったけど、1組として絶対に成長できたと思います。これで終わりではなく、コンクールで学んだことを生かして、学級解散までの残りの約4ヶ月を頑張っていきたいです。



### ◎ 2組

**Kさん**：私は、歌声コンクールをなぜクラスごとでやるのか疑問でした。でも、選曲から歌の練習、本番をやってクラスの雰囲気や関係が良くなっているなと思いました。私は歌声コンクールがコロナの時でもあった理由なんだなと思いました。人と人が同じことを同じ目的でやると絆が生まれる。普段の生活でできないクラスの絆を行事で補うことができるから年に3回くらい行事があるんだなと思いました。いろんな人がいる学校で同じ時間、同じものを共有するだけで楽しさや悲しさがあることを歌声コンクールや体育祭を通してわかりました。

**Sさん**: 3年生はどのクラスもきれいな声が出ていて、全てのクラスが賞をとるのではないかと思います。自分の番が終わったとき、すごくやりきった感があったのを覚えています。毎日練習をしてきて、最初は音程もよくわからなくて、「大丈夫かな？」と思ったけれど、だんだん良くなって歌声コンクールのときが1番だったと思います。歌声コンクールまでいろいろなことがあったけれど、本当に楽しかったです。自分のクラス以外の歌声は普段聞かないので、こういう行事があってもいいなと思いました。



### ◎ 3組

**Aさん**: 今回、中学校に入ってとても大きい柏文化会館に行って、クラス全員と歌いました。私はソプラノパートのパートリーダーで、ソプラノのメンバーで朝の会や帰りの会でいつも練習していました。音楽室で練習する時間が私はお気に入りでした！音楽室はいつもの教室より広いのでクラスのみんなと合わせた時、音楽室全体に響いて、歌っていてとても気持ちよかったです。本番に近づくにつれて皆少し気合いが入っているように見えました。優秀賞が取れるかドキドキしていましたが、取れて嬉しかったです。私は特に3年生の歌声に圧倒されました。3年生は全部のクラスのレベルがとても高くどのクラスも魅力的でした。いつか3年生みたいに今よりもさらに上手い合唱にしたいです。あと2年間チャンスがあるので、もっともっと成長して、次の1年生にびっくりさせられるように頑張ります。

**Kさん**: 最初は、曲を聴いてパート練習をしていて、なかなか音程が上手く取れなくて、テノールパートが全員やる気も薄れてきたけど、数をこなしていく内に音程がだんだんと取れるようになってきました。コンクール2週間前くらいから家で少しか歌うようにして、声がしっかり出せるように自分なりに練習をしたり、どうやったら低い声が出るか色々試したりしながら練習していました。本番を迎えて1年生の発表が終わった後も、優秀賞が取れるかずっとドキドキしながら先輩の発表を聴いていました。結果的に優秀賞を取れることができて、とても嬉しかったし、ずっと頑張ってきた甲斐があったなと思いました。



## ◎ 4 組

**S さん**: 私が歌声コンクールで学んだことは、学級のみinnで協力することの大切さです。最初の私は、歌声コンクールなんてただクラスのみinnでなにか歌って賞なんて付くものじゃないと思っていました。でもそれは違いました。歌声コンクールはそのクラスの長所などを生かしながら歌い、クラスのみinnで優秀賞、最優秀賞を目指してクラス全員で協力して頑張るものでした。本番ではみinnな声も出ていたと思います。でも、結果は優秀賞を取ることはできませんでした。悔しいです。でも私は、このクラスのみinnで頑張ったんだから、それで良いと思います。この1年4組の「あさがお」が歌えて良かったです。もうこのメンバー全員で歌声コンクールに出ることはできないけど、来年、再来年の歌声コンクールも全力で頑張りたいと思います。

**M さん**: 私は伴奏をやりたかったのでオーディションを受けました。そのための練習はとても大変でした。曲はそこまで難しくなかったのですが、難しくないからこそ表現をつけるのが大変でした。たくさん練習したおかげで無事にオーディションに受かりました。言葉にできないほど嬉しかったです。本番はとても緊張していました。手が震えてずっとドキドキしていました。後奏の最後でミスタッチをしてしまいました。次につながることができたのですが、そこだけミスタッチをしてすごく悔しかったです。結果は優秀賞が取れなかったけど他学年の合唱が聴けてとても良かったです。



## ◎ 5 組

**O さん**: 私は今回が初めての歌声コンクールで、ピアノ伴奏をしました。クラスメイトと合わせての演奏は初めてでした。今までは少人数での合唱だったからプレッシャーがとてもありました。自分が一つでもミスを犯したら曲が台無しになってしまうからです。そのため習い事の音楽の先生と相談して、指のタッチや曲想を心がけて、頑張りました。本番は緊張しませんでした。反対に今からここで弾けるんだという嬉しさの方がありました。本番の前奏を早く弾いていた気がしましたが、ミスタッチなしでできて良かったと思いました。結果発表では自分たちの曲名が呼ばれたとき、叫んでしまうほど嬉しかったです。

**O さん**: 初めての歌声コンクールは、私にとって、とても良かったものとなりました。ステージ上で発表するとき、「声は出るかな、音を外してしまったりしないかな。」という不安がありましたが、歌い始めたらその不安は一気にどこかへ消え去り、練習通りの声が出せました。この歌声コンクールで学んだことは、一人一人の意識が高まれば、歌声や、普段の生活でさえもすばらしいものになるということです。歌声への意識が上げることを自分の目標にして、メリハリをつけて練習に取り組ませるにはどうしたらいいかななどを考えていこうにしたいと思います。





## ◎ 6 組

**U さん**: 私は指揮者としてクラスのみなをまとめました。歌声リーダーや伴奏者と一緒にどうしたら、もっとよりよい歌声になるのかと試行錯誤しました。リハーサル当日、歌い始めは良い歌声だったのですが、途中から指揮と伴奏と歌声がバラバラになってしまうトラブルがありました。私は指揮のふるリズムが早くなってしまったのかと思い、歌声コンクール当日ではそのようなことがないようにと練習しました。そして歌声コンクール当日、リハーサルのときみたいな失敗はなく、みんなと一緒に今まで1番良い発表ができました。優秀賞はとれなかったけど、みんなと力を合わせて良い発表ができて良かったです。

**W さん**: 曲選びから始まった私にとっての歌声コンクール。私達のクラスは「明日へ」という曲を歌う事になり、私は伴奏になりました。明日への伴奏は、音の振り幅が多く、あまり手の大きくない私はとても大変でした。でも私は伴奏をやって良かったなと思っています。本番では私達の出番になると、曲紹介の後、明るい光があたったときに目の前に広がる光景がとても人数が多く、もっと緊張し手汗が止まらなくなりました。演奏が始まると緊張は一気になくなり、集中できました。でもラストの伴奏時、2～3音ほど音を外してしまったので申し訳ないです。結局私達のクラスは賞を取ることができなかったけど、一人一人全力を出し、良かったと思います。



## ◎ 7 組

**K さん**: 私は、歌声コンクールでは指揮者と歌声委員の仕事を務めさせていただきました。本番前日、3年生と交歓会をした時、初めて上から見て W さんが体をしっかり使って、指揮をしっかりを見ていて前から見てもすごかったのに、上から見たら体を使っている人と体を使っていない人の差がすごいなと思いました。ついに本番、1年7組は1番最初でした。皆緊張していると思うのに今までで一番いい演奏になったと思います。結果発表で『地球星歌』と呼ばれた時、Mさんと目を合わせ喜んでいました。これから大きな歌声の行事はありませんが、この歌声を継続できたらいいなと思います。

**M さん**: 私は、伴奏者として歌声コンクールに向けて歌声活動に取り組みました。伴奏者と決まってからは学校から家に帰ったらすぐにピアノに向かい練習をしていましたが、あまり上手に弾くことができませんでした。みんなの足を引っ張っているのではないかと、とても不安になることもありました。ですが、だんだんと弾けるようになり合唱することができました。歌声コンクール当日、7組はトップバッターということもありとても緊張していましたが、今まで通り弾くことができたなら大丈夫と思いながらステージに立ったら、緊張せず今まで通りに弾くことができ、歌声も強弱がついていて今までで一番上手だなと思いました。そして優秀賞をとることができ、頑張ってよかったなと思い、とても嬉しかったです。

